

ほくりくダイアログ2024（意見対応表）

参考資料1

No.	ほくりくダイアログ2024 でのご意見			反映する内容等キーワード等	中間とりまとめ(素案)への反映等	
	項目	グループ	ご意見の内容		該当箇所	該当する中間とりまとめ(案)の記載内容（赤字ハッチ:修正箇所）
1	北陸圏の現状と課題	全グループ	・若者が考える北陸圏のイメージ（ポジティブ・ネガティブ）を記載	・北陸圏に対して感じるポジティブなイメージ ・北陸圏に対して感じるネガティブなイメージ	資料 2-1 P8 17 行目	第4節 若者が考える北陸圏のイメージ 本計画は、2050年、さらにその先の長期を見据えつつ、今後概ね10年間を計画期間と設定していることから、本計画の策定にあたり、北陸圏の将来の担い手となる若者に対して、北陸圏にどのようなイメージを抱いているか、対話の場 ¹ above を設けて確認を行った。 北陸圏に対して感じるポジティブなイメージとしては、「あたたかい」、「ゆったり」、「落ち着く」といった意見が多い。具体的には、近所同士のつながりや助け合いなどの地域の結束力が強い、都会と比較すると時間の流れが緩やかに感じられる、自然が豊かでリラックスできるなどの意見が挙げられており、地域コミュニティ内における交流・連携や北陸圏の暮らしやすい住環境などに対して、ポジティブなイメージを有している。これらは若者にとって大都市圏では感じられない北陸圏の強みになっているものと考えられる。 一方、北陸圏に対して感じるネガティブなイメージとしては、「つまらない」、「きゅうくつ」、「暗い」といった意見が多い。具体的には、娯楽や商業施設が少ない、圏外流出などにより同世代の友人が少ない、固定概念などにより新しいことに対する抵抗や同調圧力を感じる、冬期間になると降積雪により移動しづらいなどの意見が挙げられており、様々な暮らし方・働き方のできる生活環境・雇用環境や冬期間の気候などに対して、ネガティブなイメージを有している。これらは若者が大都市圏等に流出する要因となる北陸圏の弱みになっているものと考えられる。
2	安全・安心な地域づくり PJ(PJ1)	グループD	[10年後に望む暮らし] ・災害が起きても安心して避難ができる [北陸圏広域地方計画への提案] ・産官学の連携	あらゆる関係者が連携した防災・減災対策の推進	資料 2-1 P27 7 行目	第1章 目標1の達成に必要な広域連携プロジェクト 第1節 安全・安心な地域づくりプロジェクト (PJ1) 厳しい自然環境を有する北陸圏において、自然災害から住民の命と暮らしを守ることは最重要の使命である。近年では自然災害が激甚化・頻発化していることから、 あらゆる関係者が連携・協働した 防災・減災、国土強靱化の取組を一層強化していくとともに、事前防災・事前復興の観点からのハード・ソフト両面から防災地域づくりを推進する。
3	多様性のある地域づくり PJ(PJ2)	グループE	[10年後に望む暮らし] ・身近な関係で助け合う手を差し伸べる雰囲気があれば [北陸圏広域地方計画への提案] ・助けが必要な人の可視化	地域コミュニティ内における要支援者に対するサポート体制の充実	資料 2-2 P8 24 行目	(1) 若者から高齢者みんなが住みやすく、2世代、3世代と安心して住み続けられる、地域コミュニティの維持・充実、定住化環境整備 また、平素から適切な医療や福祉サービスが受けられることが安全・安心な暮らしの基本であり、令和6年能登半島地震ではその重要性が再認識されたことから、地域で安心して暮らし続けられるよう、 地域コミュニティ内における要支援者の把握やサポート体制の充実 、身近な地域で質の高い医療・福祉サービスを受けられる環境や地域総合福祉の充実、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を推進する。
4	多様性のある地域づくり PJ(PJ2)	グループB	[10年後に望む暮らし] ・新しいチャレンジができる [北陸圏広域地方計画への提案] ・「良いのではないか」となってくれる	起業など新しいチャレンジに対する寛容性	資料 2-2 P9 13 行目	(1) 就業・起業や社会参加など就業環境の更なる充実 さらに、 起業など新しいチャレンジに対するサポートや寛容性のある環境整備のほか 、多様な人材が役員やリーダー層の役割に就ける環境整備を図り、自らの能力を自由に発揮できる魅力ある地域づくりを推進する。
5	多様性のある地域づくり PJ(PJ2)	グループA	[10年後に望む暮らし] ・自分の好きな道を自由に選択できる [北陸圏広域地方計画への提案] ・教育の充実・多様な選択肢	多様な価値観を受け入れるための教育の充実	資料 2-2 P10 17 行目	(4) ダイバーシティへの対応 性別、年齢、人種や国籍、障害の有無、性的指向・ジェンダーアイデンティティ、宗教・信条、価値観などのほか、キャリアや経験、テレワークや兼業・副業など柔軟な働き方などの多様性を踏まえ、 多様な価値観を受け入れるため、学校教育のほか、地域と連携した教育の充実などの環境整備により、意識の醸成を図ることで 、女性、高齢者、障害者、外国人など多様な人材が、暮らしやすく働きやすい環境整備を推進し、企業や地域社会のダイバーシティ（多様性）&インクルージョン（包摂性）を促進する。
6	多様性のある地域づくり PJ(PJ2)	グループD	[10年後に望む暮らし] ・自分の考えを言える環境になる [北陸圏広域地方計画への提案] ・家や職場でそれぞれの意見を受け入れる雰囲気をつくる	多様な価値観を受け入れるための環境の醸成	資料 2-2 P10 17 行目	(4) ダイバーシティへの対応 性別、年齢、人種や国籍、障害の有無、性的指向・ジェンダーアイデンティティ、宗教・信条、価値観などのほか、キャリアや経験、テレワークや兼業・副業など柔軟な働き方などの多様性を踏まえ、 多様な価値観を受け入れるため、学校教育のほか、地域と連携した教育の充実などの環境整備により、意識の醸成を図ることで 、女性、高齢者、障害者、外国人など多様な人材が、暮らしやすく働きやすい環境整備を推進し、企業や地域社会のダイバーシティ（多様性）&インクルージョン（包摂性）を促進する。
7	多様性のある地域づくり PJ(PJ2)	グループA	[10年後に望む暮らし] ・中高年の方々がより若者のネガティブな意見に寛容になる [北陸圏広域地方計画への提案] ・協議会の委員は年齢の偏りがないようにする ・地元の若者で構成されたNGO団体の育成&政治参加	まちの将来ビジョン策定等に関する検討体制へ若者の積極的な登用	資料 2-2 P10 29 行目	(5) 地域力向上に向けた取組の方向性 加えて、課題解決に取り組む人材の育成を進め、 行政等における各種施策・計画の策定検討を目的に設立される委員会・協議会等への若者の積極的な登用など 、行政等との対話の場づくりを通じて、地域住民主体の取組体制をボトムアップの視点で構築する。
8	多様性のある地域づくり PJ(PJ2)	グループB	[10年後に望む暮らし] ・グローバル人材が多い(活躍の場が多い) [北陸圏広域地方計画への提案] ・多言語勉強支援、留学支援→それを生かす場までの提供	グローバル人材の育成と活躍の場の提供	資料 2-2 P11 23 行目	(3) 優れた人材定着に向けた環境整備の充実及び多様な就業環境の創出 また、北陸圏で育った優れた人材がグローバルに活躍できるよう、 多言語教育の推進や国際交流の機会を提供するとともに、これらの人材が圏域内でもその能力を活かして活躍できる場を創出する 。さらに、多様な働き方の選択肢を準備することで、人材定着を図る。
9	多様性のある地域づくり PJ(PJ2)	グループD	[10年後に望む暮らし] ・出た若者が帰ってきやすい環境 [北陸圏広域地方計画への提案] ・若者への支援制度だけでなく、その土地のコミュニティやつながりをつくっておく	転出者がUターンしやすい環境の醸成	資料 2-2 P11 37 行目	(4) 暮らしやすさのPRによる二地域居住・定住化・UIJターン等の促進 また、 圏域外に転出した方が様々なライフステージにおいて、地域と継続的に関わりを保つための取組や、北陸圏内へのUターンを選択しやすい環境づくりを展開するほか 、里山・里海を活かした田舎暮らし、自然の中での悠々とした生き方を楽しみたい若者や子育て世代等の田舎探しやシニア世代が元気なうちに田舎暮らしできるように、UIJターンによる定住促進の仕組みづくりを推進する。

ほくりくダイアログ2024（意見対応表）

No.	ほくりくダイアログ2024 でのご意見			反映する内容等キーワード等	中間とりまとめ(素案)への反映等	
	項目	グループ	ご意見の内容		該当箇所	該当する中間とりまとめ(案)の記載内容（赤字ハッチ:修正箇所）
10	多様性のある地域づくり PJ(PJ2)	グループF	[10年後に望む暮らし] ・地域に住み続けるビジョンが持てる社会 [北陸圏広域地方計画への提案] ・小中高大の教育機関の連携	持続可能な地域コミュニティの形成に向けた初等・中等・高等教育の連携	資料 2-2 P12 22 行目	(5) 若者が地域を知る機会・学ぶ機会を増やし、社会の一員として力を育む取組の充実 機会の創出にあたっては、シティズンシップ教育や、ワークショップなどを通じて地域の大人とディスカッションすることで、地域の課題を具体的なかつ能動的に学ぶことが可能となり、 このような取組を初等・中等・高等教育が連携して実施することで 、若者の地域への愛着を育み、地域課題を解決する場に多様な主体の参加拡大を図り、持続可能な地域コミュニティの形成を促進する。
11	多様性のある地域づくり PJ(PJ2)	グループA	[10年後に望む暮らし] ・都会でできない体験教育 [北陸圏広域地方計画への提案] ・自然・文化を交流（年代、国、地域）して学ぶ	交流・関係人口の拡大を図る体験教育	資料 2-2 P12 14 行目	(5) 若者が地域を知る機会・学ぶ機会を増やし、社会の一員として力を育む取組の充実 北陸圏の美しい多様な自然環境や優れた地域文化等を活かした体験学習や、多様な世代・地域の方との交流などにより、若者が北陸圏の魅力を認識してもらう機会を創出する。
12	デジタルを活用した地域生活圏形成 PJ(PJ3)	グループF	[10年後に望む暮らし] ・都市部と出やすい [北陸圏広域地方計画への提案] ・高速かつ安価な交通手段	利用しやすい交通手段	資料 2-2 P14 2 行目	(1) 接続型都市圏の形成 また、2024年3月の北陸新幹線金沢ー敦賀間の開業効果などを圏域全体に波及させるため、新幹線駅と結節する二次交通の整備・充実、交通結節点改善やパーク・アンド・ライド駐車場の整備等によるバスや鉄道等の地域公共交通の利便性の向上を推進し、 高速かつ利用しやすい交通サービスを提供することで 、新幹線駅等を核としたビジネスとにぎわいの創出を図る。
13	デジタルを活用した地域生活圏形成 PJ(PJ3)	グループE	[10年後に望む暮らし] ・片町や駅がもつにぎやかに [北陸圏広域地方計画への提案] ・飲食店やエンタメ的な店の誘致	若者がまちなかに集う商業施設の誘致や既存市街地の再編など中心市街地の魅力向上	資料 2-2 P16 21 行目	(2) まちなかの人中心の都市・街路空間への再構築 都心への居住誘導、空き家の有効活用や老朽危険空き家の除却など住環境の向上、 既存市街地の再編や商業施設の誘致等による若者がまちなかに集うための中心市街地の魅力向上など 、官民空間の一体的な利活用等により「居心地が良く歩きたくなる」まちなかを創出することで多様な人材や関係人口を呼び込み、新たなコミュニティの形成を推進するとともに、地域活動の活性化を図る。
14	デジタルを活用した地域生活圏形成 PJ(PJ3)	グループF	[10年後に望む暮らし] ・目玉となるテーマパーク [北陸圏広域地方計画への提案] ・北陸ランド建設	若者がまちなかに集う商業施設の誘致や既存市街地の再編など中心市街地の魅力向上	資料 2-2 P16 21 行目	(2) まちなかの人中心の都市・街路空間への再構築 都心への居住誘導、空き家の有効活用や老朽危険空き家の除却など住環境の向上、 既存市街地の再編や商業施設の誘致等による若者がまちなかに集うための中心市街地の魅力向上など 、官民空間の一体的な利活用等により「居心地が良く歩きたくなる」まちなかを創出することで多様な人材や関係人口を呼び込み、新たなコミュニティの形成を推進するとともに、地域活動の活性化を図る。
15	活力ある農林水産業形成プロジェクト(PJ5)	グループA	[10年後に望む暮らし] ・農業・漁業への尊敬と誇り [北陸圏広域地方計画への提案] ・インターンの受け入れ（短・中期）・1日体験（年代幅広く）	インターンの受け入れ・1日体験	資料 2-2 P22 28 行目	(2) 農林水産業に取り組む人材の確保・育成 また、 圏域内外からの農業体験の受入など農林水産業に興味のある交流・関係人口の拡大や、豊かで多様な農林水産資源の生産体制の確保を図るための多様な人材の活用 、スマート農林水産業などの新技術の社会実装に取り組み、農林水産業における多様な働き方を実現させ、農林水産業への地域内外からの新規就業を拡大させることで、農林水産業に携わる人材の確保・育成を図り、これらの人材の活躍により中山間地域を始めとする農山漁村の維持・再生・強化を促進する。
16	活力ある農林水産業形成プロジェクト(PJ5)	グループB	[10年後に望む暮らし] ・障がい者が安心して雇用される街づくり [北陸圏広域地方計画への提案] ・伝統産業（農業）の障がい者雇用の推進	伝統産業（農業）の継承にむけた多様な人材の活用	資料 2-2 P22 28 行目	(2) 農林水産業に取り組む人材の確保・育成 また、 圏域内外からの農業体験の受入など農林水産業に興味のある交流・関係人口の拡大や、豊かで多様な農林水産資源の生産体制の確保を図るための多様な人材の活用 、スマート農林水産業などの新技術の社会実装に取り組み、農林水産業における多様な働き方を実現させ、農林水産業への地域内外からの新規就業を拡大させることで、農林水産業に携わる人材の確保・育成を図り、これらの人材の活躍により中山間地域を始めとする農山漁村の維持・再生・強化を促進する。
17	競争力と魅力ある地域産業形成 PJ(PJ6)	グループA	[10年後に望む暮らし] ・子どもたちが魅力を感じられる産業に [北陸圏広域地方計画への提案] ・子ども店長（社会見学ではなく主体的な体験）	若年層に対して北陸圏のものづくり産業等に興味を持ってもらう取組	資料 2-2 P24 14 行目	(1) ものづくり産業集積とデジタル技術を活用した産業競争力の強化 令和6年能登半島地震で被災した事業施設等の早期復旧や復興に向けた取組などによる事業再建を促進しつつ、地域企業のDX推進に向けて、産学官連携のサポート体制を構築し、活力ある独自の成長産業を創出するとともに、 若者が北陸圏の優れたものづくり産業等に興味を持ってもらう取組を推進し、地域産業の担い手の確保を図ることで 、北陸の豊かな生活空間の発展を促進する。
18	競争力と魅力ある地域産業形成 PJ(PJ6)	グループB	[10年後に望む暮らし] ・地域の象徴、伝統工芸が自慢できる [北陸圏広域地方計画への提案] ・圏外から担い手に来てもらう	伝統工芸の継承にむけた圏域外の人材活用	資料 2-2 P24 32 行目	(3) 北陸の伝統産業のブランド化・グローバル化 また、国際競争激化等、北陸の伝統産業を取り巻く環境変化に対応するため、 伝統産業の継承に向けて圏域内外から担い手の確保 や、圏域内外から誘致した民間企業との連携による高付加価値化を図るブランド力の強化を推進するとともに、優れた商品の魅力を国内外に発信し、知名度の向上や販売拡大を促進する。
19	競争力と魅力ある地域産業形成 PJ(PJ6)	グループC	[10年後に望む暮らし] ・個人への融資のハードルを下げる [北陸圏広域地方計画への提案] ・補助金の充実（個人事業など）、ノウハウの支援	個人事業主へのサポート	資料 2-2 P25 25 行目	(1) イノベーションを生む多様な人材・知・産業の集積、産学官金との連携による起業環境の醸成 さらに、企業間のマッチングや起業活動等をサポートする仕組みづくりや、起業家・学生・企業・支援機関等が気軽に集える場の創出、企業誘致による雇用機会の創出等、 個人事業主へのサポート等による創業機運の醸成 を促進する。また、優れた人材を誘致していくため、良好な住環境や既存企業の持つ技術力等のポテンシャルを積極的に情報発信していく。
20	関係人口拡大 PJ(PJ11)	グループE	[10年後に望む暮らし] ・どこでも好きな北陸に関われば [北陸圏広域地方計画への提案] ・転出した人に「帰ってきてもらう」のではなく関わりしるをつくる	転出者が北陸圏との関係性を保つ取組	資料 2-2 P33 23 行目	(2) 地域課題の解決に関わる企業・人材の取組支援 また、地域課題解決に関心をもつ人材を育成するため、学校における探究活動や農山漁村体験、自然体験活動、地域留学等の取組や、 圏域外に転出した方が出身地等の祭りや文化・風習など地域のアイデンティティ形成に対して継続的な関わりを保つための取組等 を推進する。